

ポスター発表「獣医師との連携による 飼育動物を活用した授業の取組」

則末 久美子



1 はじめに

本校では、これまで5・6年生の飼育委員会の活動として、チャボの飼育が行われていた。2年前までは、4羽のチャボ（オス1羽、メス3羽）を飼育していたが、寿命のためか昨年2羽が死去し、現在はオス・メス各1羽を飼育している。

平成28年4月からは、東京都小動物飼育推進校の指定を受けることになり、2年生が生活科の活動として、チャボの世話に取り組むことになった。児童のほとんどが、チャボの飼育経験はなく、最初は怖がる様子も見られたが、飼育委員会の児童にお世話の仕方を教えてもらい、2～3人のグループで中休みや昼休みに、餌やりや水換え、飼育小屋の簡単な掃除等の活動を始めることになった。

2 飼育活動に関する児童の実態

本校は、青梅市の東部にあり、学校の隣には霞川が流れ、周りには山もあり自然に恵まれた学校でる。昆虫や水生生物等を採集したり飼育したりする経験がある児童も多い。しかし、家庭で動物を飼育している児童は少なく、自分が責任をもって世話をしている児童は更に少なかった。

学校では、これまで飼育委員会の児童が中心になってチャボの世話をしていたため他の児童がチャボと触れ合うのは、年に一

度10月に実施する飼育週間の時に限られ、それ以外は飼育小屋の外から見るだけであった。

2年生がチャボの世話をするようになってからは、最初は近づけなかった児童も継続して世話をすることによって、チャボの性格も理解し、愛情をもって笑顔で接するまでに至った。また、1年生の中には、自分達も2年生になったらチャボのお世話ができると楽しみにしている児童も多かった。

3 飼育活動の実際と活動での児童の姿

(1) 日常的な世話

平成29年度までは、3羽のチャボを飼育していた。チャボの世話をするにあたっては、前年度の2年生からの引継ぎや、獣医師からのチャボの生態や扱い方についての指導を受けたことで、チャボがかわいいというだけでなく、命がある生き物として、自分達が責任をもって世話をすることを自覚することができた。

児童は、毎日の餌やり、水替えと飼育小屋の清掃等、当番を決めて2～3名で行った。餌は、鶏用の物だったため、すり鉢ですり潰して細かくして食べさせた。チャボは、ぞれに、ショウ（♂）、ピカ（♀）、マロン（♀）と名前が付いており、児童はお世話が終わると、自分のお気に入りのチャボと触れ合い、体調に変化がないか観察した。チャボの健康チェックのポイントは、獣医師から教えていただき、観察カードに記入した。

(2) 獣医師と連携した授業

東京都小学校動物飼育推進校2年目を迎えて、1年目よりも獣医師との連携を図るために、児童の実態に合わせた年間30時間の指導計画を立てた。

獣医師と連携した授業として、2年生は、1学期に2時間、チャボの生態や関わり方

の他、命の大切さについてのお話を
していただいた。2学期には、他の動物と
も仲良くなるために、犬やウサギを連れて
きていただき、動物の特性を理解し、触れ
合う体験を行った。

また、教員向けの研修会も年2回実施し、
学校全体でチャボの飼育に対して理解が図
れるように指導と助言をいただいた。今ま
では、飼育委員会の担当が中心となってい
た飼育活動に、全教員が理解をもち、夏休
みの職員作業として、飼育小屋の環境整備
を行うことができた。

(3) 国語・生活科・図工の授業から

○国語

「生き物はかせになろう」

チャボの世話を通して、チャボの特徴や
性格をじっくり観察し、分かったことや感
じたことを、友達に紹介するために文章に
まとめた。

分かりやすく説明するために、箇条書き
にしたり、接続詞を使ったりして作文を書
き、発表した。

「チャボの引きつぎ会」

3学期に行う、1年生に向けての引継ぎ
会のための説明について、話す内容を考え、
分かりやすく説明できるように話し方を練
習した。

○生活科

「生き物はっけん」

チャボの継続的な飼育に関わる活動を計
画した。獣医師から、チャボの生態や飼育
方法についての指導を受け、餌には配合飼
料を食べやすく擦り潰したり、家庭から出
る野菜の切りくずなどを持ってきたりす
るとよいことを教わった。

また、チャボの健康観察の仕方や抱き方
も教わった。

「生き物となかよし」

2学期には、チャボ以外の生き物の生態
や関わり方について、獣医師から話をし
ていただき、実際に犬やウサギに触れ合う
体験をした。最初は、動物を怖がる児童も
いたが、それぞれの動物の特性や、関わり
方を学ぶことで、動物のことを理解すれば怖

がらずに仲良くなれることを学ぶことが
できた。

「チャボの引きつぎ会」

2月には、1年間継続してきたチャボの
世話を、1年生に引き継ぐために、3羽の
チャボの特徴や、世話の仕方、健康観察の
仕方や抱き方等をまとめ、発表した。4月
に昨年の2年生からチャボの世話を引き継
いだ児童たちも、約1年経つと、チャボの
性格まで理解し、愛情をもって世話をし
ていることが伝わってきた。

○図工

「わたし・ぼくの大好きな○○」

自分達が毎日世話をしている、チャボの
絵を描いた。児童は、チャボの羽の1枚1
枚や、目や口、とさかの特徴までよく観察
しているので、素晴らしい作品が完成した。
愛情をもって接しているからこそ、細かい
ところまで特徴を捉えて表現することがで
きていた。

チャボの絵には、児童が考えた詩を付け
加えることで、さらにチャボを大切にし
ていることが感じられる作品となった。



4 おわりに

本校は、平成28・29年度東京都小
学校動物飼育推進校の指定を受けたこと
により、今まで飼育委員会の仕事として
行われていた飼育活動が、2年生の生活
科の年間指導計画に組み込まれ、継続し
て活動を行うことができた。その結果、
チャボのことに関心がなかった児童も、
自主的に世話をしたり、観察をしたりす
るようになった。また、獣医師との連携
授業を通して、動物に直接接触して心音
を確認したり体温を感じたりする経験
したことにより、動物をペットとして
かわいがるという感覚から、命のある生

き物として自分達が責任をもって育てていくという意識が育ってきた。学校の教員だけの授業では、ここまで動物に愛情をもったり、命の大切さを実感することは難しかったのではないかと考える。

研究推進校の指定は、2年間で終わっ

てしまったが、2年間で実践したことを、次年度も引き継いでいかなければならないと考える。本校の動物飼育活動の関わり御指導いただいた獣医師の先生方には深く感謝いたします。

(青梅市立第四小学校校長)